



© Julien Mignot



エベーン弦楽四重奏団

話題の弦楽四重奏団を毎年ご紹介するコンサート・シリーズ「クアルテットの饗宴」。今年は、ARDミュンヘン国際音楽コンクールの覇者にして、2019年の来日ベストコンサート21(『音楽の友』誌)で、室内楽演奏の最高位にランキングされたエベーン弦楽四重奏団と、3年前の紀尾井ホール初登場の際に、千変万化な驚きの表現で好演を博したドーリック弦楽四重奏団の2団体をお届けします。

今回ご紹介するエベーン弦楽四重奏団は、《CLASSICプログラム》と《CLASSIC+JAZZプログラム》と題して2日間の公演を開催いたします。6月の来日公演に先立ち、エベーン弦楽四重奏団の皆さんからお話をお伺いしました。

— 2019年4月から2020年1月まで、まさにコロナで世界が閉じる直前までベートーヴェンのワールド・ツアーをなさっていました。この1年近くのツアーを経て、皆さんのベートーヴェン作品への理解と演奏はどのように変化しましたか？

また、コロナ禍は皆さんの音楽生活や音楽的ヴィジョンに何か変化をもたらしましたか？

私たちはベートーヴェンの音楽の普遍的な力に驚かされました！それぞれの文化によって反応は異なりますが、ベートーヴェンは誰にでも語りかける音楽を創り出すことに明らかに成功しています。それはなにより一過性とリズムの、驚くべき化学反応があるからです。彼の音楽は歌うだけでなく語るのです。

コロナ禍は私たちの職業全体にとり厳しい時期でしたが、良いこともありました。大変ではあるけれど、毎日美しさに触れることができるこの仕事をするのがいかに特権的なことであるかということとをより強く感じます。そして、この美しさをリアルに人々と共有できることは、デジタルやライブストリーミングなどには絶対に代えられないものです。

— 結成から20年以上活動されていますが、クアルテットを続けていくことで最も大切にしていることは何ですか？



© Julien Mignot

コロナ禍の日々の活動で、私たち4人の間のバランスを取り戻す必要があります。持続可能なキャリアのための最も重要なツールは、音楽と生活の両面で互いに耳を傾けること、個性を補い合うこと、そして頑固であることです！

——ところで、通常リハーサルはどのように進められるのでしょうか？

まず、優先順位を明確にするための話し合いから始まります。緊急事態が発生する可能性もあります。その場合はすぐに要点に取り掛かります。もし時間を掛け

てゆっくり練習できる場合は、より純度を求めてビブラートなしのロングイントネーションでの練習を行います。

——作品を作り上げていく上で、メンバーそれぞれの「役どころ」というのはありますか？

特に「役どころ」はありませんが、それぞれの個性が異なる何かをもたらし、異なる働きを要求するのです。多くの場合、誰かを満足させようと試みることです。グループ全体が良くなり、そうしているうちに一人一人のヴィジョンが広がります。

——そもそもなぜ皆さんは学生時代にジャズを学んだのですか。そして1999年に「Distraction」として始まったエベースのジャズが、なぜアルテットの重要なレパートリーとして定着したのでしょうか。

とても自然なことです。最初のリハーサルの時からクラシック音楽のレパートリーのハードワークと即興演奏が混ざっていました。私たちはいつも即興のファンタジーのためのスペースを残しています。それだけではありません。私たちはとてもよく歌いますし、ヴィオラにマリーが来てからはなおさらです。楽譜に書かれた音楽を演奏するミュージシャンとジャム・セッションに参加するミュージシャンの間の双方向性は実際とてもよく似ていて、少なくとも、

成長するために最も重要なスキルである互いを聴く能力を大いに強化します。

——今回の日本公演の2つのプログラムについて、聴きどころを教えてください。

これは言うのが難しいです！弦楽四重奏のレパートリーは本当に名作ばかりで、モーツアルトのト長調とショスタコーヴィチの8番で何が一番美しいとは言えません。私たちが強く信じることは、コンサートは様々な異なる雰囲気を行き来する冒険のようであるべきということです。

あたかも偉大な個性のアッサンブラージュのように、ヤナーチェクはドラマチックに、優しさにあふれたシューマン、ハイドゥンからヤナーチェク、シューマンへの全体構成は、「愛のフィリング」が音楽にどのような虹を提示します。私たちのジャズ・セッションにハイライトがあるかどうかを言うことは不可能です。それこそがインプロそのもの、予測不可能なのです！

——皆さんにとっては初となる紀尾井ホールを気に入っていただけると嬉しいです。

私たちもとても楽しみにしています。敬意や組織、詩的センスはフランス文化に非常に欠けていると信じており、学ぶべきことがとても多い日本を愛しています。

クアルテットの饗宴 2022

エベース弦楽四重奏団

[CLASSICプログラム]

ハイデン 弦楽四重奏曲第34番二長調 op.20-4, Hob.III-34
ヤナーチェク 弦楽四重奏曲第1番《クロイツェル・ソナタ》
シューマン 弦楽四重奏曲第2番へ長調 op.41-2

6/16
木
19:00

[CLASSIC+JAZZプログラム]

モーツァルト 弦楽四重奏曲第14番ト長調 K.387
ショスタコーヴィチ 弦楽四重奏曲第8番ハ短調 op.110
ジャズ選曲集 (演奏曲目の詳細は当日発表)

6/17
金
19:00

共催：(株)メロス・アーツ・マネジメント



© Julien Mignot

*公演開催についての最新情報は紀尾井ホールウェブサイトをご確認ください。